

プロジェクト終了まであと残り 1 ヶ月とちよつとになった 5 月のある日。

気温が朝から 30 度を超え、日中には 40 度近くにもなるインド、アンドラ・プラデッシュ州スリカラム県パタパトナム。ビジャカパトナムから 150 キロほど離れたこのパタパトナムにやってきたのは VVK (※1) のオバチャン 4 名。

建設中の生産・物流センターでは、センター周辺の 2 か村、ポガダヴァリ村 (P 村) とマミディジョラ村 (M 村) からオバチャンたち 5 名が待っていた。

合計 9 名の都市からきたオバチャンと農村のオバチャンたちが、建設中のセンターの一室で輪になって座ったまま……。

誰もミーティングを開始する気配なし。

●VVK オバチャン 1:「あの～今日は、ナオコ・マダム (※2) がクラフト素材開発の話をしてくれるんでしょ？」

☆ラマラジュ (※3):「(オバチャン 1 は無視) 今日のミーティングの議長は誰？」

▲P 村&M 村オバチャン一同:「……沈黙 (心の声) 「議長って何??？」」

○VVK オバチャン 2:「エーっ今日も議長がいるの? ナオコ・マダムがミーティングをしてくれるんじゃないの??」

☆ラマラジュ:「何言ってるんですかっ!! これは誰のミーティングですか? あなたたちはクラフト素材開発の担当として参加しているのではないのですか?」

○VVK オバチャン 2:「そーですけど。。。」

☆ラマラジュ:「だったらいつも通り議長を決めてください。あ、P 村と M 村の人、わからないことはすぐに質問するようにしてくださいよ。」

▲P 村&M 村オバチャン一同:「(心の声) 「エエエツツ!! ナニ質問したらいいの? 議長ってナニ? ソムニードがミーティングするんじゃないの?」」

◎ VVK オバチャン 3:「じゃあ、アンタ議長やんなさいよっ」

□ VVK オバチャン 4:「いやよ、アタシ記録係やるから、アンタやんなさいよっ」

○VVK オバチャン 1:「仕方ないわねー、アタシが議長をやりましょう。P 村の人、M 村の人、議長というのはね、みんなの意見をまとめてミーティングを進めていく係なのよっ。わかる?」

▲P 村&M 村オバチャン一同:「ふ～ん、そーゆーもんなのー。」

議長は決まるが、またまたしばらく沈黙。  
またしても誰もミーティングを開始する気配なし。

●VVK オバチャン 1:「アンタたち、議題を挙げてよ！」

□VVK オバチャン 4:「うーん、じゃあ“村にある不用なものをクラフト素材として活用する方法とビジネス”っていうのは？」

P 村オバチャン 1:「不用なものってナニ？クラフト素材ってナニ？」

□VVK オバチャン 4:「それはねえ、ほら前、ナオコ・マダムがターメリック（うこん）の根っこで、捨ててる部分を持ってきたじゃない？あーいうところよ。」

●VVK オバチャン 1:「ちょっと待ってよ、今は議題を挙げてるんだから、説明するのは後にしてよ。」

●VVK オバチャン 1:「で、他の議題は？何もないの？」

◎VVK オバチャン 3:「あっそうだ、まえのミーティングで黄門様（※4）が、このセンターの名前をつけなさいって言ってたわよね。じゃあ“センターの名前を決める”も議題に入れてー。」

P 村オバチャン 1:「アタシ、そもそもこのセンターを誰のために、何の目的で作ったのか知りたいわ。」

□VVK オバチャン 4:「それはね、アタシたちのためよっ！アタシたちがビジネスをするために作ったのよ！」

●VVK オバチャン 1:「じゃあそれも議題に入れましょう。ちょっと、アンタ、何度も言ってるでしょ、今議題を挙げてるんだから、いちいち答えないように！」

★ナオコ:「あの～議長、発言してもいいですか？」

●VVK オバチャン 1:「どうぞ、どうぞ。」

★ナオコ:「せっかくここまで来たのですから、明日にでも、P 村か M 村に言って、村で宝（不用なもの）探しをしたいんだけど、それも議題に入れてくれる？」

○VVK オバチャン 2:「それは、そうね。ここまで来たのだから村へ行かねばっ！賛成。で、どこの村へ行く？」

●VVK オバチャン 1:「もう、だから議題を決めてるんだから、答えないようにっ！じゃあ今日の議題は、次の4つですね。」

その1) 村にある不用なものをクラフト素材として活用する方法とビジネス

その2) センターをどう利用していくか

その3) センターの名前を決める

その4) 村へ出かけて宝（クラフト素材になりそうで、村では不用なもの）探しをする

●VVK オバチャン一同:「了解！じゃあ早速（1）から議論を始めましょう！」

ここまで P 村と M 村のオバチャンたちは、VVK オバチャンたちに圧倒されたまま、無言の状態が長く続く。

◎アシスタント・プロマネ：(心の声)：「P 村のオバチャンの“このセンターは誰のため？何のため？”なんて質問は、3 年前のビシャカのオバチャンたちが、“ソムニードはアタシたちに何をくれんのよっ！？”って言ってたというのと同じだろうなあ。私はそのとき、まだインドに赴任してなかったけど、きっと今の P 村と M 村のオバチャンの姿が、そのまま 3 年前の VVK のオバチャンたちの姿なんだろうなあ。3 年間で、こんなに変わるんだなあ。すごいなあ。」(※この心の声、後でプロマネ (※5) に話してくれた内容。)

議題は決まったが、またしても誰もミーティングを開始する気配なし。

☆プロマネ：「議長、発言してもよいですか？」

●VVK オバチャン 1：「どうぞ、どうぞ。プロマネ、なんか言ってくださいよ、誰も議論を始めなくて。」

☆プロマネ：「P 村と M 村のオバチャンたちに聞くけど、アンタたち議長の言った 4 つの議題の意味わかった？」

▲P 村のオバチャン 1：「議題はわかったけど・・・何を話してよいやらわからないわ。」

△M 村のオバチャン 2：「アタシ、全然、何の話をしているかわからないわ。そもそも何、議題って？」

ここで VVK のオバチャン 4 名が全員、口をはさむ (しかも一度に)。

P 村と M 村のオバチャンたちに、議長とは何か、議題とは何か、不用品の活用とは何か、ビジネスとは何か、クラフト素材ビジネスとは何か、PCUR-LINK 事業はこれまで 3 年間ソムニードとどんな活動していったか、センター建設のいきさつ、などをワーワー、ギャーギャーと一斉砲火 (あ、じゃない) 一斉に説明を始める。

これがまたウルサイ、ウルサイ。

騒然とした VVK オバチャンによる議題の説明が終わった後。

☆プロマネ：「P 村も M 村の人も、今日の議題はわかった？」

▲P 村&M 村のオバチャン一同：「よ〜く、わかったわー。」

☆プロマネ：「じゃあ、この議題について話し合う今日のミーティングに参加したいと思う人いる？議題がわかっても、おもしろくない、自分には関係ない、と思ったら、今すぐ帰っていいですよ。」

▲P 村&M 村のオバチャン一同：(心の声)「エー~~~~ッ！帰っていいの？アタシたち帰ったら、ソムニードや VVK は、困るんじゃないの？」

☆プロマネ：「この議題について、おもしろいと思ったり、自分も何かやってみたい、と思った人だけ残ってくれば良いので、そうでない人に無理にミーティングでないでいいです。あ、VVKのオバチャンたちも、ナオコ・マダムが話をしてくれるのを待っているだけだったら、今からビシャカに帰っていいからね。お疲れさまでした。さようなら。」

▲P村&M村のオバチャン一同：「アタシたち、ミーティングに参加するわっ！！もっとクラフト素材ビジネスのこと知りたいわっ！センターのことも！！」

●VVKオバチャン一同：「アタシらだって、せっかくここまで来て、今帰れないわっ。今日と明日で、センターの名前も決めるし、もっとP村とM村のことだって知りたいわ。クラフト素材ビジネスを始めるのよー！！」

☆プロマネ：「はいわかりました。では皆さん、私とラマラジュは、今からしばらくセンター建設の現場監督に行ってくるので、失礼しま〜す。」

会場には、P村&M村のオバチャン、VVKのオバチャン、そしてナオコとアシスタント・プロマネ（※6）。

議題が決まり、プロマネとラマラジュがいなくなってしばらく・・・。

またしても誰も議論を始めない。

「ナオコ・マダムがビジネスの話をしてくれる。とにかく待っていよう」というオバチャンたちの沈黙の時間に、焦りを感じるアシスタント・プロマネ（※6）

◎アシスタント・プロマネ：「議長、発言してもよいですか？」

●VVKオバチャン1：「どうぞ。」

◎アシスタント・プロマネ：「これまでナオコ・マダムとどんな活動をしてきたか、一つずつVVKの方から、P村とM村のオバチャンに話してあげるとよいと思うのですけど。」

□VVKオバチャン4：「それはいい考えね。じゃあね。今までね、何と何を集めて、どんな作業をして、えーっと、えーっと。」

と、しばらく延々とVVKオバチャンがこれまでクラフト素材開発をしてきた話が続く。フムフムと熱心に、聞くP村とM村のオバチャンたち。

ある程度説明が終わった時点で、VVKのオバチャンたちには、「VVKとソムニード」、「VVKと農村部での素材探し」、「日本への輸出」などのクラフト素材開発ビジネスの全体像の説明が抜けていることが判明。そこでナオコの登場。

クラフト素材開発ビジネスの全体の流れを写真やイラスト、図で説明。

「農村部のM村、P村のオバチャンたち」、「生産・物流センター」、「都市部のVVK

のオバチャンたち」、「日本のソムニード」、そして「日本でイベントや講座でクラフト素材を使う人たち」というチャートを見るのは初めて、という M 村、P 村のオバチャンたちは、熱心にナオコの話聞いていた。M 村や P 村のオバチャンたちはともかく、VVK のオバチャンたちもなるほど、なるほど、とナオコの説明を聞いている。

◎VVK オバチャン 3:「な〜るほど。だから、今回、私たちここに来たのねー。今わかったわー。」

◎アシスタント・プロマネ:(心の声)「お〜い！前回のミーティングで言ったばかりでしょー！それに、VVK のアンタたち、クラフト素材開発ビジネスの話は、数ヶ月前にナオコから聞いたばかりでしょーがー！また脳みそが初期化されてる〜！！でも、まあミーティングの最初で、なぜこのミーティングに自分が参加してるのかって、納得できたのだから、ヨシとしよう。」

その後、昨年 VVK がナオコから受けた研修、トウモロコシの皮、タマリンドの殻&ターメリックヒゲ根を一次加工と梱包することについて、VVK のオバチャンが、ナオコに代わって説明した。

この説明の後、1 人の VVK のオバチャンが口火を切った。

○VVK オバチャン 2:「でもね、こうした素材を加工したり、梱包したりする作業はビジネスの一部なのよっ。私たち、家族でビジネスをするんじゃないわ、VVK という組織とか、P 村、M 村と共同でビジネスをするんだから、こうした商品をつくる作業の他にもいっぱいやることあるのよっ。」

●VVK オバチャン 1:「そうよっ。家族や 1 人でやるビジネスには、在庫管理や、帳簿付け、買掛金や売掛金の記録、そんなことは必要ないわ。でも、農村部の P 村と M 村の人たちと VVK で、ビジネスを始めるなら、ビジネスの様々なルールを最初に、たくさん決めておかなければいけないのよっ。」

センター建設の現場監督を終えて（詳しくはブログ <http://somneed.seesaa.net> をご覧ください）、ミーティング室に戻ったプロマネとラマラジュ。3 年間の集大成のような VVK オバチャンのこの発言を聞いて目はウルウル。

ビジネスなんて、やれ収入向上だ、やれ援助だ、などではどうにもできない厳しい競争の世界。この厳しい世界で、本当にビジネスに成功している人なんてほんの一握り。

お手玉が、せいぜいボール投げくらいしか、知らない人たちが、いきなり大リーグの舞台に引っ張られ、さあ今ここで野球（ビジネス）をしろ、と言われて、野球ができる人なんていない。そもそも、ボールがあつて、バットがあつて、一塁があつて、二塁があつて、攻撃する側と守備をする側があつて、1 塁から 2 塁に走るのであつて、3 塁から 2 塁に走るのではない、というルールも覚えなくちゃ、野球そのものが出来ない。

VVK のオバチャンたち、ビジネスを始めるときの、ボール（帳簿）があって、バット（コスト計算）があって、ということすらわからない、ビジネスのルールなんて当然わからない、という時期が長かった。

それでもドーンと勢いでサリーの小売りなんかやって、大損して（転んだり）、喧嘩して（けがしたり）、しながら、ビジネス（野球）に最低必要な知識を身につけてきた。

今だって、大リーグなんかで野球はできないけど、ようやくボールやバットの存在を知り、その使い方を覚え、最低限のルール（3 塁から 2 塁に走っちゃダメ）がなんとかわかった状態なのだ。

しかし、農村部の P 村と M 村のオバチャンたちは、もちろん、この VVK オバチャンの発言の意味は理解できず……。彼女たちがわかっていないことがわかった VVK オバチャンは、農村部との連携によるビジネスの道のりの長さにクラクラしている様子。

でも、それがわかるなんてスゴイ！

さてさて頭がクラクラするような暑さの中、議題 1 に関してをあれこれ質問しながら、VVK のオバチャンやナオコの話聞いていた P 村と M 村のオバチャンたちは、次の議題「その 2）センターをどう利用していくか」の答えに気がついた。

どうやらこのセンターは自分たちがイニシアチブを持って、VVK のオバチャンたちと積極的に使っていかなければならない、と。

「議題その 3）センターの名前」を決めるとき。

☆プロマネ：「このセンターを生まれたばかりの娘や息子のように育ててゆこうという気のない人に、センターの名前はつけて欲しくないわー。このセンターの母親になろうと思う人たちで、名前を決めてくれなくちゃ。“こんなセンターはソムニードが勝手に使って、アタシたちの知ったこっちゃない”というなら、このセンターの名前は”ソムニード・パタパトナム・センター”にするから、それでいい？」

●VVK オバチャン、P 村、M 村オバチャン一同口をそろえて：「それは絶対嫌。これはアタシたちのセンターよっ！アタシたちで、名前つけますっ！」

あーでもない、こーでもない、と名前は決まらず。

結局、翌日のくじ引きで決定した名前は……。

それは、次号のお楽しみ。

<注意書き>

(※1) VVK：ビシャカ・ワニタ・克蘭ティの略。2005年に同事業のファシリテーター

ションによって設立されたビシャカパトナム市内および近郊の 36 の SHG からなる連合体。SHG とは、セルフ・ヘルプ・グループといい、貯蓄と貸し付けを行う 10 人～20 人で組織されるグループ。

(※2) ナオコ：ソムニードのクラフト素材開発担当スタッフ。本名は高田尚子。

(※3) ラマラジュ：ソムニードの PCUR-LINK 担当スタッフ。

(※4) 水戸黄門：本名、和田信明。ソムニードの代表理事

(※5) プロマネ：プロジェクト・マネージャーの略。本名は、原康子

(※6) アシスタント・プロマネ：本名、前川香子。ソムニード・スタッフ

\*\*\*\*\*